

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成22年2月18日(2010.2.18)

【公開番号】特開2008-180873(P2008-180873A)

【公開日】平成20年8月7日(2008.8.7)

【年通号数】公開・登録公報2008-031

【出願番号】特願2007-13735(P2007-13735)

【国際特許分類】

G 02 B 26/10 (2006.01)

B 41 J 2/44 (2006.01)

H 04 N 1/113 (2006.01)

H 04 N 1/036 (2006.01)

【F I】

G 02 B 26/10 F

B 41 J 3/00 D

H 04 N 1/04 104 A

H 04 N 1/036 Z

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月18日(2009.12.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

レーザ光束を射出するレーザ光源と、前記レーザ光源を保持するレーザ保持部材と、前記レーザ保持部材を位置調整して接着固定する光学箱と、を有する光学走査装置において、前記光学箱と前記レーザ保持部材は、前記レーザ保持部材を前記光学箱へ固定する際に前記レーザ保持部材を前記レーザ光束の光軸方向へ案内するガイド手段を有することを特徴とする光学走査装置。

【請求項2】

前記ガイド手段は、前記レーザ保持部材と前記光学箱の一方に設けた突起部と、その他方に設けた溝部であり、前記突起部と前記溝部とを対向させたことを特徴とする請求項1に記載の光学走査装置。

【請求項3】

前記突起部と前記溝部のうち少なくとも一方は、前記レーザ光束の光軸に対して傾いた斜面を有しており、

前記斜面は、前記レーザ保持部を前記光学箱に係合するにしたがって、前記レーザ保持部材の前記光軸を中心とする回転を規制するように設けたことを特徴とする請求項2に記載の光学走査装置。

【請求項4】

前記ガイド手段は、前記レーザ保持部材に設けた光軸方向に延びた柱部と、前記光学箱に設けた光軸方向に延びた孔部と、で形成され、

前記柱部と前記孔部は、それぞれの断面がDカット状になるように平面部を有し、

前記レーザ保持部材を前記光学箱に係合する際、前記レーザ保持部材の平面部と前記光学箱の平面部を対向した状態で前記柱部を前記孔部に挿入することを特徴とする請求項1に記載の光学走査装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

上記課題を解決するために本発明に係る光学走査装置の代表的な構成は、レーザ光束を出射するレーザ光源と、前記レーザ光源を保持するレーザ保持部材と、前記レーザ保持部材を位置調整して接着固定する光学箱と、を有する光学走査装置において、前記光学箱と前記レーザ保持部材は、前記レーザ保持部材を前記光学箱へ固定する際に前記レーザ保持部材を前記レーザ光束の光軸方向へ案内するガイド手段を有することを特徴とする。